

人文系学生を対象とした就業力育成を支援する 電子ポートフォリオの開発

菅谷 克行*1・神田 大吾*1・神谷 拓平*2
Email: {sugaya, dkanda, kamiya}@mx.ibaraki.ac.jp

*1: 茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科

*2: 茨城大学人文学部社会科学科

◎Key Words 就業力育成, 大学教育, 電子ポートフォリオ, PDCA サイクル

1. はじめに

近年、大学教育に対する要請として、就業力⁽¹⁾・社会人基礎力⁽²⁾の育成に代表される、キャリア教育が求められている。背景として、大卒生の就職状況の悪化や大学生の職業意識の希薄化、同時に従来の大学教育が学術的知識に関心が強く就業に対する配慮が少なかった点等が指摘されている⁽³⁾。特に人文系の学生に関しては、大学で学ぶ教養・専門課程の内容と就職後に必要となる知識やスキルとの関連性が明確ではなく、卒業後の将来像を見出せない学生も少なくない。

そこで本研究では、(1)大学の人文系学部の教育課程で育まれる素養や専門知識および学内外での諸活動を卒業後の就業力と有機的に関連付けること、(2)学生自身による学生生活全般のリフレクションを支援すること、(3)学生と教員の双方にキャリア教育・就業力育成を意識させること、を目的とする電子ポートフォリオシステムを開発した。本稿では、6つに整理した人文系学生の就業力の内容と、その育成を支援する電子ポートフォリオの基本的な考え方・位置付け・構成(各ポートフォリオの内容)について報告する。

2. 人文系学生を対象とした就業力とは

2.1 専門分野・知識と就業の関連性

現在、職業構造は多様化しており個々の職業についてのイメージを得ることが難しく、適性に合った職業を見つけることは困難になっている⁽³⁾。特に人文系学部の卒業した学生の就業(就職先・職種)は、大学の教育課程で学ぶ専門分野と直結している場合はほとんどなく、専門知識と就業との関連性を見出すことが困難である。そのため、学業や課外活動の経験から獲得した知識・スキル・考え方を、就業に向けてどのようにマッチングさせていけばよいのか分からない学生が多い。また、就業への意識が低い学生も決して少なくなく、就職活動が始まってから慌てて準備を始め、自分自身がどんな職業に就きたいのか、適性とは何なのか、就業とは何なのか、と思悩む学生もいる。すなわち、多くの人文系学生にとっては、学生生活と卒業後の就業が乖離してしまっているというのが現状である。

そのため、キャリア教育支援の第一歩として、教育課程で育まれる知識・スキル等をはじめとした学生生活の諸活動を卒業後の就業と有機的に関連付けることが必要であると考えた。

2.2 就業力の整理

大学設置基準では就業力を「学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」としているが、本研究では、この定義を踏まえた上で就業力の要素・能力を具体化することに取り組んだ。検討の結果、人文系学生の就業力を図1に示す6つの能力に整理した。

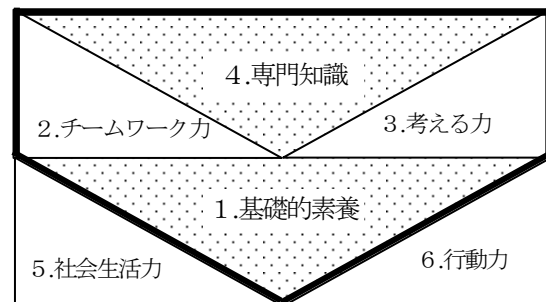


図1 就業力の構成

まず大学の教育課程として、教養教育から専門教育へと進むカリキュラムで中心的に育成される知識・スキルを「1. 基礎的素養」と「4. 専門知識」として配置した(図1の網掛け部分)。そこにゼミナール形式の授業やグループ作業・討論を交えた授業により、「2. チームワーク力」や「3. 考える力」が備わり、「1. 基礎的素養」と「4. 専門知識」をしっかりと繋ぎ・支える役割をする。以上の4つを授業に関連付けられる能力(図1の太線で囲まれた部分)として配置した。

更にこれらの能力を土台として支えるのが「5. 社会生活力」と「6. 行動力」である。この2つの能力は、大学入学以前に形成されたパーソナリティ特性によるところも大きく、また、大学の授業においても、直接にその育成を目指すというものではない。しかしながら、教職員の面談・指導や課外活動等で間接的・偶発的に養われていくものであり、授業で身に付けた能力・知識を就業後に実社会で活かすためには必要な能力であると考え、図1のように配置した。

これら6つの能力をバランスよく育成することがキャリア教育における本取り組みの要点である。そして、それを実現するために、学業のみでなく学内外の諸活動(サークル活動、アルバイト、ボランティア活動、読書、芸術鑑賞等)もカバーしたポートフォリオが必要であると考えた。

3. 電子ポートフォリオによる支援

3.1 ポートフォリオの教育利用

教育分野におけるポートフォリオは、学生が学びの過程で生成する学習成果物や学習履歴などを蓄積した一塊のファイルである。重要なのは、蓄積することが目的なのではなく、評価を含んだ再利用サイクル（本研究においてはPDCAサイクル）を含む必要があるという点である。これを電子化することにより、物理的な制約がなくなり、記入・編集・閲覧などの自由度が高くなり、活用の幅が広がる。電子ポートフォリオを用いた教育実践報告は既に多くあり、例えば、授業で使った生徒の内省を支援したもの⁽⁴⁾や人材育成を目指したもの⁽⁵⁾等が興味深い。

本研究では、電子ポートフォリオを、①PDCAシート、②活動ポートフォリオ、③自己診断ポートフォリオ、④履修ポートフォリオの4種類で構成し、これらを適切なタイミングで活用・指導することによって学生・教員の双方に就業力育成に対する意識を高めることを目指す。ポートフォリオへの記入内容の閲覧は学生本人と指導教員のみアクセス権を与え、さらに教員が簡易評価（選択式）とコメントを記入できる欄を設けることによって、電子ポートフォリオ上で学生-教員間のコミュニケーションを可能にした。各ポートフォリオの役割を次節で説明する。

3.2 各ポートフォリオの役割

① PDCAシート（学期毎記入）

学業に関して記述をする「学修PDCAシート」と、学業以外（将来に向けての準備や課外活動等）に関して記述をする「キャリアPDCAシート」を用意した。学期毎に学生自身が目標を立て、目標達成に向けた計画（Plan）、実行内容（Do）、自己評価（Check）、次期行動すべき内容（Act）をそれぞれ適切な時期に記入する。学生に、記入とリフレクションを通じてキャリア設計の意識を高めてもらう、まさに本ポートフォリオシステムの核となるシートである。

② 活動ポートフォリオ（随時記入）

学生生活の諸活動において、「感動した」「考えが変化した」「新たな認識を持った」「成長した」等と感じた経験が、将来に影響を与えることがある。それら貴重な経験を、リフレクションのきっかけとして記録・蓄積しておくことが、このポートフォリオの目的である。最近はSNSやblog等でこのような内容の記述をしている学生も少なくないが、一時の感情の吐露であったり友人に伝えたいということが主な動機であり、後々それらの記述をキャリア形成に活かすことを前提としていない。そのため、ポートフォリオに貴重な経験を記録しておくことで、将来を意識した（キャリア設計で活用することを前提とした）諸活動の記録ができるのではないかと考えた。

③ 自己診断ポートフォリオ（学期・年次毎記入）

本ポートフォリオは、各学期末に記入する「自己診断シート」と、各年次末に記入する「総括診断シート」で構成する。図1で示した6つの能力について、その

詳細項目を表形式で用意した。それぞれの能力内容と行動例・経験例を提示しておき、学生がそれらを参考にしながら自己診断（成長の有無を判断）する。「成長有り」と判断した項目には、判断の根拠となる具体的内容を記録しておく欄を設けた。

④ 履修ポートフォリオ（年次毎表示）

学生の履修（単位修得）に応じて、「1. 基礎的素養」から「4. 専門知識」までの能力がどれだけ蓄積されたかを、ヒストグラムによって可視化するものである。学生が記入・操作するところはないが、各節目において、学生自身が授業履修によってどの能力を伸ばしたのか、目指す能力を身に付けるには今後どの科目を受講する必要があるのか等、自己能力把握と履修計画に役立てることが目的である。

3.3 ポートフォリオの運用と評価

本取り組みは、2012年度より本格運用を始めた。そのため、現段階においては取り組み全体に関して利活用を観察している状態である。本取り組みを評価・考察するためには、運用実績・時間が必要であり、この点を今後の課題とする。特に学生と教員の双方へインタビュー・アンケート調査により、使いやすさ、アクセス権、取り組みの意義等を評価したいと考えている。

4. おわりに

本稿では、人文系学生を対象とした就業力育成支援の取り組みとして、6つに整理した人文系学生の就業力の内容と、その育成を支援する電子ポートフォリオの基本的な考え方・位置付け・構成について報告した。運用し始めたばかりであるため、現時点において評価は困難であるが、学生・教員双方にキャリア教育に対する意識を高めるきっかけにはなっていると感じる。

今後の展望として、電子ポートフォリオに蓄積される大規模なデータを、データマイニング等の情報処理技術によって整理・可視化し、キャリア教育の知見を見出すことができれば非常に意義深いと考える。

本取り組みは、本学の就業力育成事業「根力育成プログラム」の一部である。同事業代表の鈴木敦教授をはじめ関係者各位に謝意を表し、本稿をむすぶ。

参考文献

- (1) 文部科学省: “大学生の就業力育成支援事業”
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/shugyou/1292891.htm [2012.5.25 最終閲覧]
- (2) 経済産業省: “社会人基礎力”
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.htm> [2012.6.11 最終閲覧]
- (3) 金子元久: “キャリア教育の焦点”, 大学教育と情報, 19巻, 2号 (2010) http://www.juce.jp/LINK/journal/1004/02_01.html [2012.6.10 最終閲覧]
- (4) 後藤康志, 生田孝至: “学習者の内省を支援するデジタルポートフォリオの開発”, 日本教育工学会論文誌, 26巻, 3号, pp.245-255 (2002)
- (5) 小川賀代, 小村道昭, 梶田将司, 小館香椎子: “実践力重視の理系人材育成を目指したロールモデル型eポートフォリオ活用”, 日本教育工学会論文誌, 31巻, 1号, pp.51-59 (2007)